



担い手通信<第二号>

令和元年度
第13期
担い手育成推進
委員会
事務局 発行

一般社団法人コミュニティネットハピネス代表理事の土屋幸己先生をお招きし、『地域活動の担う役割について』をテーマに「」講義いただきました！

地域で福祉を進める上での役割分担について学びました。

最近耳にする「地域包括ケアシステム」とは？

地域包括ケアシステムの目的は、独り暮らしや要介護状態・認知症になつたとしても、住み慣れた地域で、地域との関係性や信頼関係の中で尊厳ある地域生活が続けられるような仕組みを構築する事にあります。

この仕組みが必要とされている背景には、人口減少や少子高齢化、高齢者・独居世帯の増加、要介護認定者の増加、介護の担い手不足など様々な課題があります。この事と向き合うためには、

地域での支えあい体制を構築することが肝になります。

第二回の委員会では、土屋先生より具体的な手法の説明や、先進事例である南アルプス市の取り組みについて紹介がありました。

元気に暮らすためには、人と話をする事（通いの場）、活動すること（活動の場の確保）が大切で、家に引きこもらず活動に参加することにより、健康寿命を延ばすことができます。

皆さんにはそのような通いの場の創出や拡充について、ますます目を向けていただければと思います。



講義の後半では、白熱のワークショップを行いました！

地域に必要な支えあい活動を考え、そこに参加してほしい人材は誰か？
皆さんで語り合い、各班で発表しました！

★各班で挙がった意見として

- ・一人暮らしで引きこもりがちの方が散見される。
- ・大きなマンションだが、住民同士の交流が少ない。
- ・買い物にお困りの方が多くいると聞いている。
- ・通院の際、交通手段に苦労されている方が…。
- ・お庭の草木が大変な事になっているご家庭をよく見る。



● 地域の問題（困っていること）は何ですか？
改善しなければならぬ現状（問題点）を洗い出しました。

★各班で挙がった意見として

- ・ 地区ボラセンをもっと周知してお困りの方に利用してもらう。
⇒ 買い物、通院、草取り剪定は対応しているので。
- ・ 通いの場、居場所づくり（サロン活動の充実を図る）
- ・ あいさつ運動（身近な方への声かけ運動）
⇒ 顔見知りになって、お困り事について話が聞けるような関係づくり
- ・ まずは、ボラセンの人材確保！

● 地域にどんな支えあい活動（サービス）があったら良いですか？
具体的な支えあい活動を考えました！

★各班で挙がった意見として

- ・ ボラセンのサポーターとして、買物付き添いの対応をする。
- ・ ボラセンの活動を口コミで広げて、利用まで結びつける。
- ・ 声かけ運動をして、顔見知りになって相談にのってあげる。
- ・ チラシなどのポスティングをする。



● その活動に対してどんな協力ができますか？

★時間の都合により、参加してほしい人材の検討までは至りませんでした
先生からヒントやアイデアをいただきました♪

第三回委員会は10月21日(月)10:00～12:00
さがみ農協ビル2階 B会議室で開催します。
皆さま、また次回よろしくお願いたします！

